

通信機器ディーラーを元気にする

「商材」発掘!

ナビゲーター
高橋 則夫
YCS・技術顧問

Vol.2

T2 Ethernet

開発 / 製造元 : 米TUTシステムズ社 国内総販売代理店 : 理経

既存電話配線使いVDSLでトリプルプレイ

「今さらなぜ新製品?」と思われるほど、VDSL装置は普及した。一時の速度競争や長距離化競争も終息し、すでに価格競争に入っている。ただし、その用途のほとんどは、集合住宅でのブロードバンド・アクセス。主にインターネットのリッチコンテンツを快適に使う目的で導入されてきた。

注目すべき市場は他にもある。「PBX配下の電話配線をそのまま利用し、IP電話やVODを実現したい」といった需要だ。PBXのスター型配線の利点を活かし、VDSL装置内で高速スイッチングすれば、帯域占有型のサービスを端末まで供給できる。

特に、ホテルのVODサービスに適用すれば、ハイビジョンにも対応可能な帯域を、客室ごとに確保。MPEG-2/4等を使って、ホームシアター並みの高画質・高音質を提供できる。さらに、インターネットアクセスやIP電話システムを組み合わせれば、宿泊客にトリプルプレイをサービス可能となる。

敷地の広い工場や学校などでの活用も見込まれる。通常のイーサネットは100mしか届かない。工場全体をLAN化するには、大型ルーターや多数のフロアスイッチが必要になる。VDSLなら最大1km先まで届くので、機器コストも大幅に削減できる。あるいは、電話端末やPBXはアナログのまま、ポートを分けることで、PC-LAN等を追加できるわけだ。この効果は、端末の台数が増すほど大きくなる。

技術力に定評のある米TUTシステムズ社が、成熟市場に新規参入した理由がここにある。

端末までインラインで給電

この1月に国内発売される同社の「T2 Ethernet」

は、「イーサネットを代替する」との狙いで命名された。接続速度は最大100Mbps。ただしVDSLなので、延長距離に応じて減衰し、900mで40Mbps前後となる。

センター装置の「Ethernet Switch」はダウンリンク25ポートと10M/100M/1Gのアップリンクを2ポート搭載。予価50万円で、11台までカスケードできる。

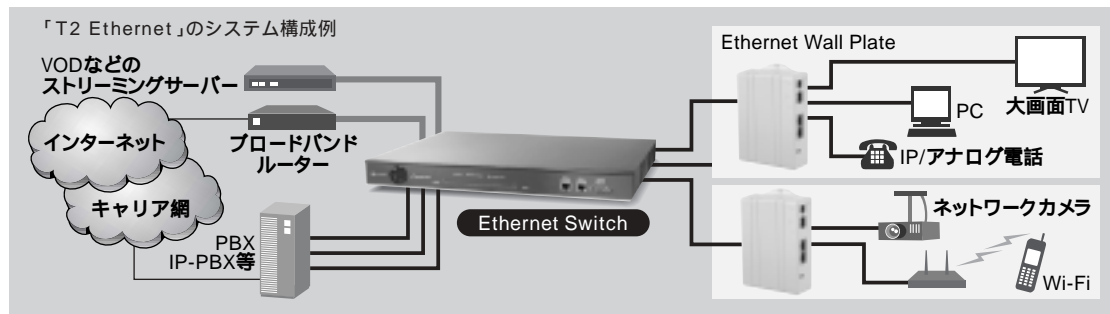
既存製品との大きな違いは、最大650mインラインで給電できる点。端末モデムの「Wall Plate」はコンパクトな壁面コンセント型なので、電源のない場所にも容易に設置できる。電話のコンセントパネルを外し、RJ-11プラグをモデムの裏側に差し込んだら、壁面にネジ止めするだけだ。

Wall Plateはスプリッタを内蔵し、アナログ音声ポートと、10/100Mのイーサネットを2ポート備える。予価3万円で、別途4ポート型も用意。電源には別売りのACアダプタも使える。

これらの特徴を生かすと、例えばネットワークカメラシステムを簡単に構築できる。電話線のアウトレットさえあれば、電源コンセントも、同軸ケーブルの敷設も必要ない。この場合も、カメラの台数が増えるほど大きなメリットが得られる。

さらに、モデムのポートには最大4000タグのVLANを設定でき、センター装置ではポート単位にQoSを設定できる。また2月には、4ポート型の網間対向接続タイプ(価格未定)が追加される予定だ。

いずれもMDF室に設置される機器だけで、LANと同等の機能を実現するコンセプト。まさに通信系ディーラーが強味を発揮できるソリューションである。



株式会社YCS

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-5-2 フォアサイトビル401
TEL : 03-5822-6665 FAX : 03-5822-6667 URL : <http://www.YCS.co.jp/>